

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-2（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45930

總

理

方

一

一

、

五

下

回

記

名

身

極秘 (circled stamp)

11月5日 總理行會

出席者 總理、古房古友、副古友
大臣、下院土佐、池田、森、新藤、
部長

主要議題

欧州、中東、鐵道、12月主と、
下院土佐の演説。

鐵道12月は、多喜子、カトの演説
で "comprehensive" 或は "selective" とするに
"General" 2" 法を始り置く と之を 西の
法等に 進む と云う 結構。 總理の
方針は "方針" (通差) は 學問は 世界に
3"、又 多喜子 と云う、 12月 12日 米
2"、 法の 善策と 先 12月 12日 米の 見通
しかるに 點は、 12月 12日 米の 見通
12月 12日 米の 見通 12月 12日 米の 見通
12月 12日 米の 見通 12月 12日 米の 見通
12月 12日 米の 見通 12月 12日 米の 見通
12月 12日 米の 見通 12月 12日 米の 見通

豆粒が土まじり土まじり(鉄燈の活
を7けたゆは「万事よし訂かぬ)と云
う通号で説得の要あり 善のコメント
あり.

炭火松に1112は、北9報1127112は柴
玉と先令の竟息録直したゆは「甘や、は(正
論に然るを使わすに非ず。(双方の予
通加通号)、等子は127412724北127
援助をやるに非ず112112112、北1127
たて有、書にやるたは「北1127の(正
1212先んて112112112、 etc.

秘
無期限

事務次官 官房長
官房総務参事官
アメリカ局長
参事官
北米第一課長

大臣記者懇談要旨 (11月5日)

報道課長

1. 総理官外急強会

下田大使の報告には特に日新しきとはなかつた。日大使は
冒頭、ニクソンは「代大統領のなかでも最も困難な局面に
直面しており、最近やつぱり目立つ、佐藤総理は年令的に、
又、日本の最高指導者としても先輩なのであから、ワシントンでは
ニクソンの苦境に理解を示し、歴史上にもいはいと云々か、

これはなかなか劇化された。

2 沖の交渉

訪米の交渉は今日のマイヤ-との会議で実質的に終了

と云える。マイヤ-はワシントンで總理を歓迎する目的で

帰朝直前に總理に挨拶にヒトコ-トである。来週

初め實現するであろう。

核の問題については、米側もワシントンで御前会議

をくりかえすであろう。どうも一落着くかおれららるゝが

出発前に大急ぎ変化はなかつたと思ふ。

今朝に訪米の部分がワシントンで終わるであろう

なと思ふが、なにか分令部の品物で、おから雑言はさるゝ

マヤ-IT 各論問題も大事にしたいから今日では

も具体的なことは出さないといいから、大抵はこれにしよう

と樂觀している。沖野の米資産の問題も今日では

と三つにたいも出さないといい。共同声明に出るにしよう

この問題があるから今後協議するにいう程度であらう。

沖野はオバマにやるか、オバマにはゆくまい。米では

釘を刺し、念を押したいともあろうし、今日での交流は

日本側の押せ押せで、このままでは米の完税化になるか

ら、オバマにたいもオバマはある程度朝敵の印象を与える

必要もあるのではないかと。

3. 70年代の日本外交要綱

私は今年の5月10日(水)に、8人の人(政策企画部
 会)に70年代の日米外交の要約をとりまとめるよう指示したが
 5月11日(木)の午後5時頃、今日の韓教連絡会では、15分
 にわたって、各局別に資料がめくり出され、有田
 局長は、この作業に初めて参加し、そのペーパー
 には、欧米局は下等(い)と、中(い)と、上(い)と、それぞれ
 したが、この作業は初めて各局の代表が集った中での
 ことであつた。意見がめくり出されていくにつれて、
 有田局長も了承した。私は、このペーパー(基礎)は、中
 沖野中の10年間の日米外交の要約をつくり上げるに思つ
 ている。

下田大使執着会見要旨

(11月5日夜総理訪米直後)

下田大使 帰国したのは、総理の訪米に
からむ問題をとりあわせためである。

1. 総理の訪米を迎える米側の態勢は、
まず完了したと申上げらる。

スケジュール行事の内容も含め、ワシントン
に帰る向りの儀典表と最終的は確

認~~り~~^る 手続きが済むのみであ
る。

1. 総理の訪米を迎える米国政府と一般
国民の関心と期待は非常に大きい

おりにみりけらる。

終戦後、米国の総理が度々訪米
したが、今回の総理の新行程、米国の

政府、国民の関心と期待が大まかに
こぼれかたをいと思われず。

1つは、日本の経済的実力が強化され、
自由世界が米に次ぐ第二位、後

つて日本の国際的地位の向上は今日
に於いて訪米土壌をい、

2つは、現時点において米国のなか
でいふ情勢、例えはベトナム問題に

り困難な情勢をかかえている米国から
みれば、アジアの指導国家として

日本の総理から、困難な諸問題について
見解をきくことに特殊の意義を見出し

いりからである。これらについては観
取である。3回以内の総理と

大蔵省の合謀⁽¹²⁾、経済界をたどり、
たしといるのも、来例の期待と物語る

ものといふより。

1. 最重要な問題は、いりまのなかで沖原

問題である。⁽¹¹⁾これはついでに、慶知-
Rogersの閣内⁽¹¹⁾の合謀が3回、その間

車御-レスナイダー、ワシントンとジョ
ンソン同務次官、田中大使とグリーン

次官補の間の事務レベルで話めてきた。
まず、下給は大部分出来上っている。

たゞ、まだ重要な問題について下給すら
できていない点がある。ばど承知のとおり

たが、これはあるまじく下級である、最高裁
級の本場の輪をどう書くかは残された

問題は、³⁰元通年にあるか、別の輪にあるか
は

最高裁級は、全体を一つの package
として決めなければならない、その意味で、来るべき

合談は非常に重要である。

1. それで、かかる重要な合談に臨み副期

的で、平和的な話し合いによる返還を実現し
たいという際、尖閣の人間として云いたい

のは、最近米人はとまどっている、あれだけ
日本政府は返還は国民の悲願である

しては戦後は終らぬといつて強く交渉して
いるのに、この悲願を達成するためにこれ

(し 阻むし 反対)

る 総理の訪米も 反対 声も 多く、 大多数の国民とは思えないが、これがあつた体、どうした

ことかと各層からまかぬ。 本政本、特に 國務省は中が国内の事情は知つてゐるが、

(注)

例せば、軍部とか実業家等からまかぬ。 此際、米人から見た方面を疑念がある

ことは事実である。

(申上げ)

出先の人間として、たゞの事は、

総理の背後に広般な国民的支持、National Consensus がある、といふので、交渉が力強

く行われる。 詰合ひの結果を批判するの 体全く自由であるが、最後の交渉に臨む

前に交渉を阻害する 反対の声があるのは、 我々が米国人を説得する上で困難を

感じざるを得ない事象である。

1. 故17。 沖縄の現地から、一部の声

にすぎないが、最近 米議会に160数
人の議員に対して、復帰反対の手紙が

送られ在由である。 沖縄の現状が甚だ
経済的利益を得るに乏しい事は事実

であり、返還後之水も日本政府の独自の施
策(擁護)する必要があるとあるが、しかし
(1502)

総理訪米の矢先に^返還反対の手紙を送る
のは、本側もとまじりであるが、誠に

情ない。

之を以て何等かの形式的支持をバックに
(沖縄も含め)

総理が訪米し強力を折衝するに於
て現時点で最も必要であり、これを内地

の審判に訴えた。

(問) 本日は総理にどう説明されたか。

(答) 総理を逆よりにしてこの素因政府の一般事情を説明した。

沖縄にいつの最近の折衝はワシントン

でなく東京で行われた、随時グリーン

グも行われた。この折衝は、^{（この折衝は、従って）}ワシントンでなく、^{（ワシントンでなく）}東京に於いて

の説明はしなかった。

ワシントンで折衝されたらあることについては

に存すると思われ、事柄を説明した。

(問) 先方は、沖縄のみでなく経済問題について

も相高のコミュニケーションをとり、と待たかま

えているとの外電があるか。

(答) 本國政府の終始一貫した立場は、
沖縄と他の問題をいっしょくたにしな

いことでは、外交政策として直接関係ない
問題はひっかけないのが伝統である。
(米国の)

たゞ、総理や外相の立場に、一國全体の衡
にある人は、あつ時實に腹裡の重要
(それも含め)

部分を占める問題があれば、最高首脳
合談では、あらゆる事象と念頭にある

話合ひは当然である。これは同米
国に依らず、ジュネーヴ・ユナイテッド

集會と同じである。しかしテグエグ
としてひっかけるといふことはないと思ふ。

(問) 繊維問題を佐藤-エグリエ合談の
前に片づけようと思ふのか。

(答) 本閣会議前に、この複雑な問題が解決されることは有り得ない。

高橋ミツロウが帰った後から折衝は始まったが、routineの問題として

contactはある。

(由) 東京では、様々の問題は未解決とされ

て、ワレトレはどりみであるが。

(答) どの問題が未解決であるかは云々ぬ

が、^{その際}申し上げられたものは承知であるが、その重要問題について、_は下絵から合意は

れであるものがあり、これを解決せしめれば、従ってそれらの

南連において有る問題が未解決といふこと。

(問) 1. ベトナム問題に総理に進言したか。

2. ベトナム問題について日本政府はどの
うり態度をとるべきかと思われ
るか。

(答) (本日の話題には)
ベトナム問題は当然である。
最近北原大使がハイゴンでの見方を

伝えたし、私はワレトニから見たベトナム
問題の把握の仕方を三報告した。

ニクソン演説が傳らざるワレトニの
見方があるかと思ふ。 本件について

総理^のの発言振りは異言しなかった。
現地の見方を参考までに述べた。

(問) (本日は)
もつぱら大使の報告であったのか。

11
(答) いや、他にも。

(問) 総理は何をいふのか。

(答) (=7/2大改定との会談に付)
何に付いふと云ふことは
いふことが、心がまじりの答と

して、いふこととを質問した。

(問) 残土下給は、最高首脳が書くのか。

(答) 我々は、その前に閣僚レベルでも、事務
レベルでも下給ができていふ方がよい

と思ふが、どうか判らぬ。

(問) 前に返事がくる余地はあるのか。

(答) 何らかの indication がくればよし
と云ふ、こゝからいふ。帰国前

にアキとめられたが、遺憾ながら云
ふことが。

たが、その希望は表明して^{あり}
(問) 米同政府と同民一般の期待とは、経済性

等について具体的な衣系はつかないか。
(答) いや全然違う。経済内題について

とはなく、アジアの^指主善的国家として総理か
ら、ベトナムを抱えている米同についてどう

い姿勢が打出たか、この期待がある
(問) 核は許す態度は、はじめから変って来
政府の
米同

いのか。
(答) ~~下への何は中から~~ 米同 政府当局の

態度は初めから変ってない。
(問) 米同は、核を置くに同意か。

(答) 米同政府といっても、国防者は軍事面、
国務者は日本との政治的見地から

重点をおいており、双方の見解がどの line に統合されるか、それを統合する
 が最高首脳である。それが総理訪
 来り前にはまだ、合意しなくては
 ならない。

(問) 国務省の line に統合される見通しは?

(答) 危険と言えない。正面のことは、私にも
 わからない。

(問) 総理閣下は、10月15日のトシガハス
 吉野合談に 2国間交渉の申し入れを
 したが、先方の答は受けていないか。

(答) 予備的な打診、^(腹の探り合い) 話し合い開始の
 はずか前の段階である。日本は 2国間
 交渉はマニラ、締結員はニヤニヤと

ことは強く先方にもいっている。多国間から
考へたいものだが、多国間は、先方に

ことははっきり表明してある。

(問) それに対する米側の感觸は?

(答) 仲々、双方とも同じ。それが同じも
fact finding mission の評価の結

論が^{また}これにない。これをみても、今すぐ
話合に入るのは不可能と思ふ。現時英

では確言はつていないが、米側も段々多国間
に傾いていく(92)があるか。

(問) 訪米の時期が決定するに決まるとはなつか。

(答) 今では判らぬ。しかし、政府の態度

は先方にもはっきりいっている。

(問) パート提案について。

(答) これは共同声明の時点ではなく、将来の

協定の^{点の向題}時点である。日本は当然国会に
おかしが、米側には平和条約の一部を修正

すべきと主張するが、国会にかけざるべしとの意見が
ありの事である。アラスカ、小笠原の時点

国会にはかからなかったが。

つまり憲法慣習上、日本は国会に出る義務
(両国)

には差があるが、米側のことは現時点では
わからない。

(問) 結局は、米政府が主め子どにか、

(答) どちらでも。

(問) 米政府と日本は、沖縄と経済協定問題は

別と見なすも、国会その他を参考とするは

たうの2体たうか。

(答) いや、経済問題はむしろ route の向
題にしろ。

(問) ニクソンの談合工作は 近頃のうか。

(答) 大部やうのうかある。又ヤ一太
使も2十1分一も近く解同する。談合に

~~対~~子説明も ^(ニクソ)相成やうなる。

(問) 核の下陰書は 首脳会議に必ず ~~核~~
~~下陰書~~ 埋るか。

(答) うめ子も存在。それを白紙にして
返還を合意するとは不可能だから。

^(核)下陰書は ~~前~~に撮りおとすたうか、どけ子が ~~核~~
ともいえる。

(問) 先は、米国人のときどいには融和されたが、
 以上争は、甚だの態様や、後内題等

討する懸念がある^{（その）}時、この時を懸念は
 必要ないといわれるか。

(答) それから、金力をあげて折衝して、
 総理も、これから金力をあげてやるわけ

である。したがって、論争は、腹打際をやめ
 てもらいたい。出来上ったものを批判、

抗議するのは自由であるが、事前に交渉の
 迫力を減殺し、相手を途惑わせるのは

やめてもらいたいと切に思う。